

第6章 今後の展望と課題

第1節 地域の課題

1 棚田を潤す井路の維持管理の困難さと耕作放棄地の拡大

緒方盆地では、緒方川左岸で5本、右岸で10本もの井路群が補水関係を保ちながら、景観選定予定範囲内の水田を潤している。明正井路・富士緒井路・長淵井路・柚木井路などの大野川や緒方川の上流域に取水堰を設け、長大な流路を経て丘陵地帯の棚田を潤している。それらの井路の末流は、すべて緒方盆地を潤す緒方上井路・下井路、三区（野仲）井路に流入し、盆地内の広大な圃場を潤す補完水となっている。

盆地周辺の丘陵地帯を潤す井路群は、多くの棚田を育み、美しい景観を残してきたが、「第4章 第8節 土地利用の状況」で述べたように、井路の維持管理・水田への水管理が厳しい棚田地域から耕作放棄地が広がっている。これは、緒方盆地に限らず全国的な傾向であるが、市内でも高齢化率の高い緒方町域では深刻な問題である。写真1は軸丸棚田地域を潤す富士緒井路神明線と水田へ水を送る水口隧道である。市道から梯子を降りて水口隧道に到る。田に水を送るためには、隧道内の堆積した土砂を除けて、約30mもの隧道を抜け、ようやく水田にたどり着くのである。このような維持管理に手間を取る所から水田が荒廃してゆく。緒方盆地で、井路の水廻り調査を行った際に、多くの人々から「10年後はどうになってしまうのか」という言葉を頻繁に聞いた。



写真1 富士緒井路神明線 (左)

写真2 水口隧道 (右)

軸丸棚田地域に居住する
専業農家は、地域内の自己

の土地は管理するが、圃場が広く大型機械が導入しやすい緒方川沿いの広大な圃場に出向いて稲作・畜産飼料づくりを行っている。棚田では効率が悪いので、軸丸地域内の棚田を借用し耕作する面積は非常に狭い。

井路によって形成された景観は、井路の維持、即ち稲作が継続できないと景観の維持は不可能になっていく。富士緒井路や明正井路、長淵井路によって灌漑される棚田地域では耕作放棄地の増加が著しい。緒方上井路や原尻新井路によって灌漑される丘陵地も、減反または耕作放棄が進行している。高齢化・後継者不足に起因する丘陵地帯の荒廃が、大きな課題となっている。

2 地域共同体を結びつける年中行事の減少

このような状況に、更に追い打ちをかけるのが、新型コロナウイルスの蔓延である。緒方町域では、令和2年4月の井路普請・道路普請が中止になり、有志による作業となった地域がある。

高齢者が多い地域なので、人数の少ない60歳代以下の負担が増大している。また緒方盆地で行われる緒方五千石祭と緒方三社川越し祭りが中止となった。緒方盆地の人々の心をつなげる盛大な年中行事であるが、新型コロナ禍が収束しなければ存続が危うい。広範囲で行われる大きな祭礼行事の中止が注目されがちであるが、小集団で行われる地蔵講なども中止を余儀なくされている。人口減少・後継者不足・高齢化に伴って、ただでさえ地域の年中行事が消滅しつつある中で、新型コロナウイルス禍は非常に大きな影響を与えている。地域共同体の年中行事・祭礼行事がこのまま消滅する可能性がある。



写真3 軸丸棚田の比較（左：平成18年、右：令和2年）

第2節 農村景観の継承の意義

緒方盆地を取り囲む丘陵地域の人々は、近代の土木技術の発達と共に長距離井路を開鑿し丘陵地を美田に変えてきた。井路の隧道・サイフォン・水路橋などの構造物は、開鑿の苦労を如実に物語るものであり、結果として拓かれ弧状に連なる棚田の美しさは、人々の心を打つ。

緒方川沿いの段丘上では、緒方上・下井路、三区（野仲）井路などが、緒方川兩岸を美田と化した。豊富な水量を誇る井路の路線沿いには民家が建ち並び、独特の景観を生み出している。人々は、生活を豊かにすることを求め、井路を維持し農業を営んできた。豊作を願う神社が古くから各地に建てられ、秋分の日には、緒方盆地内の各神社から祭神が集い、獅子舞・白熊・神楽・千盆搗が奉納される盛大な秋祭り「緒方五千石祭」が開催されている。旧暦の10月15日頃（現在は11月末から12月初旬）には、田の水源である緒方川・原尻の滝・井路への感謝の目的で緒方三社川越し祭りが開催される。いずれも、令和2年度は新型コロナウイルス蔓延防止のため中止となったが、井路によって稲作を行う人々の心をつなげる重要な祭礼である。



写真4 五千石祭に集う人々

このような井路群の存在によって育まれてきた生業・美しい景観と人々の伝統を維持し、後世に伝えることは、この地域に住む私たちの誇りであり、また義務であると言えよう。過疎化・高齢化に悩む地域に光を当て、少しでも次の世代に先人達が遺してきた伝統・文化・遺産を継承し、地域の環境維持・経済発展に繋げたい。

豊後大野市が取り組むジオパーク活動の効果もあり、緒方盆地の環境の良さに魅せられ、他地域から居住し民泊を営む事例も出てきた。また、市内に昔から居住する人々にも民泊を始める事例もある。「ここには、何もない」と思っていた人々が、自分の住む地域の価値に気付き始めている。重要文化的景観という新たな評価を受けることは、農村景観の維持・継承を行うことに更なる誇りが生まれ、交流人口の増加、他地域からの定住促進、農産物販売の促進に繋がっていくであろう。



写真5 井路を学ぶジオパークガイド

第3節 保存の基本方針

1 諸法令の順守・整備と保護組織の充実

豊後大野市の景観は、景観法、豊後大野市景観条例、豊後大野市景観条例施行規則、豊後大野市景観計画に基づいて保護される。「景観の構成要素」については、本報告書の「第4章 第8節 土地利用の状況」の中で、保護対象として可能性のあるものを掲げている。井路の流路は、水を効率よく流すことが目的であるため、改修工事が常に行われる。水田は、棚田地域では荒廃が進んでおり維持が困難なものがある。緒方川沿いの段丘の圃場では、水田のビニールハウス化や一部の宅地化が進む可能性がある。これらを勘案し、景観の保存・構成要素の保存の基本方針を下記に掲げる。

[保存の基本方針]

- 1) 豊後大野市景観条例の順守
- 2) 豊後大野市景観計画に基づく各種届出等の処理
- 3) 豊後大野市文化財保護条例の順守と景観保護に対応するための条例改正
- 4) 豊後大野市重要文化的景観保存活用計画の策定及び施行
- 5) 景観保存に関わる部署・組織との連携・合意形成
- 6) 景観を保存する組織、管理体制、整備活用体制の充実

2 構成要素の選定

構成要素の選定にあたっては、物件の重要性や所有者の同意など諸問題の発生が予想されるため、慎重な対応が求められる。以下は選定の案として示しておく。

[景観の構成要素の選定方針（案）]

1) 河川

緒方川、徳田川・石用川・黒土甲川・軸丸川・知田川・清田川などで、緒方盆地を潤す井路に関わる河川について、重要な部分を抽出し選定する。

2) 井路線

井路線は、水田への導水が目的であるため、常にどこか改修工事が施されている。また井路管理者から大分県や豊後大野市に改修計画が提出され、改修予算の確保の後、施工が行われている。そのため、井路の全線を重要な構成要素とすることが困難である場合、以下のとおり保存の対象としたい物・場所を示す。

a) 井路の歴史を示す地点や物・工法、井路の構造が重要であると認められるもの。

例) 井路記念碑、取水堰と井路線の掘り割り、水路橋、隧道、サイフォン構造、放水口など

b) 井路と家並の景観が優れている場所

c) 井路に造られた汲み場

3) 圃場

緒方盆地内には、圃場整備が行われていない水田がわずかであるが現存する。圃場整備前の状況が明確に確認でき、今後も維持管理が継続できる圃場を保護対象とする。

a) 明治20年代の字図と圃場の形が変わっていない場所

b) 条里型地割の痕跡を残す場所

4) 建物・建築物

井路により形造られた農村景観を象徴する建物、地域の近代化を象徴する建物など。

a) 農家住宅や付随する納屋・倉庫・畜舎などで、景観を特徴付ける建物

b) 明治～昭和初期の官公署建物

c) 地域の近代化をめざして造られた建造物

例) アーチ式石橋など

d) 地域の祭礼に関する建物

例) 神社建物など

5) 指定文化財

緒方盆地内にある指定文化財のうち、景観の重要な構成要素となるものを選定する。

例) 緒方宮迫東石仏（国指定史跡）、緒方宮迫西石仏（国指定史跡）、辻河原石風呂（県指定有形民俗文化財）など

6) その他の文化財、特徴的な地形・地域など

指定には至っていないが、景観の重要な構成要素となるものを選定する。

大分県豊後大野市文化的景観保護推進事業 調査報告書
緒方川と緒方盆地の農村景観

令和3年（2021）3月26日

編集・発行 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地
豊後大野市教育委員会 社会教育課文化財係
電話 0974-22-1001

印刷・製本 ワークプリント